

唯に血を盛る

一、唯ただに血を盛る瓶かめならば

五尺ごせきの男児よう要なきも

高打つ胸の陣太鼓

魂たまの響を伝へつつ

不滅の真理先頭に

進めとなるを如何いかにせん

二、嗚呼たかひ戦いくさの秋とき至る

菊月きくづきの空朝晴れて

八州の勢物せいものすこ淒く

空に嘯さえずる鳥の声

若き男の意気上がる

唯これ響く陣太鼓